

戸塚地区 大規模雨水処理施設整備事業計画（横浜市）

（様式1）

項 目	内 容 ・ 施 策 等
選定理由	<p>戸塚駅を含む約200haにおける地区の浸水に対する安全度を向上させるため、気候変動の影響を考慮した10年確率降雨×1.1（1時間当たり約64mmの降雨）に対する整備を行います。</p> <p>戸塚ポンプ場流域の約200haの地区は、平成16年10月9日台風22号、平成26年10月6日台風18号などの大雨で度々浸水被害が発生しています。戸塚駅周辺は、地下施設や商業施設などの都市機能が集積しているため、浸水が発生した際には、浸水被害の激甚化が想定される地区であり、早期に対策を実施することが求められています。</p> <p>また、戸塚ポンプ場は昭和54年の供用開始から40年以上経過しており、老朽化が進行しています。適切な機能確保に向けた改築を実施し、浸水被害を防止する必要があります。</p> <p>以上より、戸塚地区の浸水対策は、計画的・集中的に対策を推進する必要があるため、大規模雨水処理施設整備事業を適用します。</p>
整備目標	<p>① 本計画における対象降雨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本計画における対象降雨：100mm/hr ・目標とする理由：雨水管理総合計画で設定した照査降雨（L1'） ・ハード整備による整備水準の目標：気候変動を踏まえた降雨 (10年確率降雨 57.9mm/h×1.1=約 64mm/hr) <p>② 目標設定</p> <ul style="list-style-type: none"> i) 生命の保護の観点：床上浸水の防止 ii) 都市機能の確保の観点：交通の支障となる道路冠水の防止 iii) 個人財産の保護の観点：家屋浸水の防止 iv) その他：特になし <p>③ ハード対策、ソフト対策及び自助の役割分担について</p> <ul style="list-style-type: none"> i) ハード対策 10年確率降雨×1.1（約 64 mm/hr）における浸水被害を防止することを目的とする。 ii) ソフト対策及び自助 施設整備で対象とする降雨量を上回る降雨において、下水道管理者による情報提供、地域住民等による土のう設置など、それぞれの主体が対策を実施することにより、被害を出来るだけ小さくする。また、ハード整備完了までの間や、地下施設などの局所的な浸水にも対応するために配備する移動式排水施設により、被害の最小化を図る。

項目	内容・施策等			
内水ハザードマップ策定状況	<ul style="list-style-type: none"> ・有 (令和3年6月策定済み) ・策定予定 (令和〇年〇月末策定予定) 			
主な事業内容	公助	ハード対策	下水道管理者	<ul style="list-style-type: none"> ・幹線整備 L=約 2.7km φ 4500 mm ・ポンプ場の整備 排水能力 11.83m³/s
			下水道管理者以外	特になし
		ソフト対策	下水道管理者	<ul style="list-style-type: none"> ・管路清掃・内水ハザードマップの提供 ・インターネット等による雨量情報の提供
			下水道管理者以外	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット等による雨量、河川水位の情報提供 ・電子メールによる河川水位上昇時や降雨の警報・注意報発表時の情報配信
	自助	ハード対策	<ul style="list-style-type: none"> ・開発行為における事業地内の雨水流出抑制 ・土のう配備 ・止水板の設置 	
		ソフト対策	<ul style="list-style-type: none"> ・道路雨水ますの清掃 ・ハザードマップによる自助・共助促進 	

備考) 事業内容については主な施策について具体的な実施数量を記述

また、下水道管理者以外が行う施策については、道路管理者など実施主体、制度要綱等を具体的に記述

- * 下水道浸水被害軽減総合事業の要件に該当し、当該事業による制度拡充分にあたる施設の整備を実施する場合には、該当する施設をすべて記載すること (別紙可、下水道浸水被害軽減総合事業の様式を参照)。なお、下水道浸水被害軽減総合計画を策定済みの場合は、その施設調書を添付すること。
- * 下水道総合地震対策事業の要件に該当し、当該事業による制度拡充分にあたる施設の整備を実施する場合には、該当する施設整備を下水道総合地震対策計画に位置づけること。
- * 下水道施設の改築 (浸水に対する安全度の向上を伴わないもの) を実施する場合には、当該施設の改築を下水道ストックマネジメント計画に位置づけること。(下水道総合地震対策計画に位置づけられている場合を除く)

年度計画 (百万円)

名称	R8	R9	R10	R11	R12以降
雨水管渠	300	2,000	2,700	2,400	6,100
ポンプ施設				2,714	28,538
計	300	2,000	2,700	5,114	34,638

備考) 事業内容に位置づけた施設について年割額(事業費)を記述。
 整備済のものは含めない。

項 目	内 容 ・ 施 策 等
整備効果	被害額：17,427 百万円が削減される。 B/C：1.54 経済的内部収益率：6.47% ソフト対策、自助の整備効果等 ：内水ハザードマップの周知、下水道水位の情報提供及び土嚢の配備等を併せて行い、家屋浸水等を防止する。
放流先河川との調整状況	雨水排水の放流先は二級河川柏尾川である。 戸塚ポンプ場および新規ポンプ場の放流量については放流先河川の許容放流量との整合性を図った計画とし、河川管理者からの合意を得ている。
その他	

横浜市戸塚地区 大規模雨水処理施設整備計画 計画図

